

1 ベクトル  $\mathbf{a} = (x, 2, -1)$ ,  $\mathbf{b} = (-2, -4, y)$  に対し、次の問に答えなさい。

(1)  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  が直交するような  $x, y$  の組を 1 つ挙げなさい。

$\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  が直交するのは、 $(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = 0$ , すなわち、

$$-2x - 8 - y = 0$$

が成り立つときである。これを満たす  $x, y$  の組は無数にある。例えば、 $x = -3, y = -2$  など。【5 点】

(2)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が 1 次従属となるような  $x, y$  の組を 1 つ挙げなさい。

$\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が 1 次従属となるのは、 $c_1\mathbf{a} + c_2\mathbf{b} = \mathbf{0}$  を満たす  $(c_1, c_2) \neq (0, 0)$  が存在することである。これは  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  が平行、つまり  $\mathbf{a} = k\mathbf{b}$  となるときである。

$$(x, 2, -1) = k(-2, -4, y) = (-2k, -4k, ky)$$

の各成分を比較することにより、 $x = -2k, 2 = -4k, -1 = ky$  を得る。第 2 式より、 $k = -\frac{1}{2}$ 。よって、第 1 式より  $x = -2 \times (-\frac{1}{2}) = 1$ , 第 3 式より  $y = -\frac{1}{k} = 2$  であることがわかる。【5 点】

(3)  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が 1 次独立となるような  $x, y$  の組を 1 つ挙げなさい。

$\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が 1 次独立となるのは、1 次従属ではないときなので、(2) で求めた  $x, y$  以外の値であればよい。例えば、 $x = 2, y = 1$  など。【5 点】

2  $\mathbf{a} = (1, -2, 0, 1)$  と  $\mathbf{b} = (1, 1, 0, -1)$  に対し、

(1) 大きさ  $|\mathbf{a}|, |\mathbf{b}|$

(2) 内積  $(\mathbf{a}, \mathbf{b})$

(3)  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  のなす角  $\theta$  の余弦  $\cos \theta$

の値を求めなさい。

$$|\mathbf{a}| = \sqrt{1^2 + (-2)^2 + 0^2 + 1^2} = \sqrt{6} \quad \text{【3 点】}$$

$$|\mathbf{b}| = \sqrt{1^2 + 1^2 + 0^2 + (-1)^2} = \sqrt{3} \quad \text{【3 点】}$$

$$(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = 1 \times 1 + (-2) \times 1 + 0 \times 0 + 1 \times (-1) = -2 \quad \text{【3 点】}$$

$$\cos \theta = \frac{(\mathbf{a}, \mathbf{b})}{|\mathbf{a}| |\mathbf{b}|} = \frac{-2}{\sqrt{6} \cdot \sqrt{3}} = -\frac{2}{3\sqrt{2}} = -\frac{\sqrt{2}}{3} \quad \text{【3 点】}$$

3  $\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$  から、グラムシュミットの方法によって、正規直交系を作りなさい。

$$\mathbf{u}_1 = \frac{1}{|\mathbf{a}_1|} \mathbf{a}_1 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}. \quad \text{【3 点】}$$

$$\begin{aligned} \mathbf{u}'_2 &= \mathbf{a}_2 - (\mathbf{a}_2, \mathbf{u}_1) \mathbf{u}_1 \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} - \left( \frac{1}{\sqrt{2}} \right)^2 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{1}{2} \\ 1 \\ \frac{1}{2} \end{pmatrix}, \end{aligned}$$

$$\mathbf{u}_2 = \frac{1}{|\mathbf{u}'_2|} \mathbf{u}'_2 = \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}. \quad \text{【5 点】}$$

$$\begin{aligned} \mathbf{u}'_3 &= \mathbf{a}_3 - (\mathbf{a}_3, \mathbf{u}_1) \mathbf{u}_1 - (\mathbf{a}_3, \mathbf{u}_2) \mathbf{u}_2 \\ &= \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix} - \left( -\frac{1}{\sqrt{2}} \right) \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} - \left( -\frac{1}{\sqrt{6}} \right) \cdot \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \frac{2}{3} \\ -\frac{2}{3} \\ \frac{2}{3} \end{pmatrix}, \end{aligned}$$

$$\mathbf{u}_3 = \frac{1}{\sqrt{3}} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}. \quad \text{【5 点】}$$

4 部分空間に関する以下の文を読んで、空欄に当てはまる最も適切な言葉、数または式を回答欄に書きなさい。

$$\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ 4 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} \text{ 対し、}$$

$\mathbf{a}_1$  が生成する部分空間を  $W_1$ ,  $\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  が生成する部分空間を  $W_2$  とする。つまり、 $W_1 = \langle \mathbf{a}_1 \rangle$ ,  $W_2 = \langle \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3 \rangle$  である。 $W_1$  と  $W_2$  の和は (1) に等しい。なぜなら、 $\mathbf{a}_1 =$  (3)  $\mathbf{a}_2 +$  (4)  $\mathbf{a}_3$  となり、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  は 1 次 (2) ではないからである。このことから、 $W_1$  と  $W_2$  の積は (5) に等しいこともわかる。

(解答欄)

(1)  (2)

(3)  (4)

(5)

(1)  $W_2$  (2) 独立 (3)  $-2$  (4)  $3$  (5)  $W_1$  【各 2 点】

- 5 集合  $W = \{(a+b, a-b, 1) \in R^3 \mid a, b \in R\}$  が  $R^3$  の部分空間であるか否か判定しなさい。

部分空間ではない。【5点】

$W$  のベクトルは、第3成分が必ず1であるため、 $W$  は零ベクトルを含まない。部分空間は必ず零ベクトルを含むので、 $W$  は部分空間ではない。【5点】

- 6  $R^2$  の線形変換  $f: R^2 \rightarrow R^2$  は

$$f(e_1 - e_2) = -4e_1 + 2e_2,$$

$$f(e_1 + e_2) = 2e_1 + 4e_2$$

を満たすとする (ただし、 $e_1, e_2$  は  $R^2$  の基本ベクトル)。

また、線形変換  $g$  の表現行列を  $B = \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$  とする。

このとき、次の各問に答えなさい。

- (1)  $f$  の表現行列  $A$  を求めなさい。

$$f(e_1) - f(e_2) = -4e_1 + 2e_2,$$

$$f(e_1) + f(e_2) = 2e_1 + 4e_2$$

より、2式の各辺を加えると  $2f(e_1) = -2e_1 + 6e_2$  を得る。よって、

$$f(e_1) = -e_1 + 3e_2 = \begin{pmatrix} -1 \\ 3 \end{pmatrix}.$$

これを上の第2式に代入すると

$$f(e_2) = 2e_1 + 4e_2 - f(e_1) = 3e_1 + e_2 = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}.$$

よって、表現行列は  $A = (f(e_1) \ f(e_2)) = \begin{pmatrix} -1 & 3 \\ 3 & 1 \end{pmatrix}$  である。【8点】

- (2)  $f$  と  $g^{-1}$  の合成  $f \circ g^{-1}$  の表現行列を求めなさい。

$g$  の逆変換  $g^{-1}$  の表現行列は、 $B^{-1} = \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$  である

【3点】。よって、 $f \circ g^{-1}$  の表現行列は

$$AB^{-1} = \begin{pmatrix} -1 & 3 \\ 3 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ -1 & 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -5 & 9 \\ 5 & -7 \end{pmatrix}.$$

【4点】

- 7 行列  $A = \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ -4 & -6 \end{pmatrix}$  の固有値と、対応する固有ベクトルを求めなさい。また、 $A$  が対角化可能か否か答えなさい。

固有多項式は

$$f_A(t) = \begin{vmatrix} 3-t & 2 \\ -4 & -6-t \end{vmatrix} = t^2 + 3t - 10 = (t+5)(t-2).$$

よって、固有値は  $-5$  と  $2$  である。【2点】

固有値  $-5$  に対する固有ベクトルは  $k \begin{pmatrix} 1 \\ -4 \end{pmatrix}$  【2点】、

固有値  $2$  に対する固有ベクトルは  $l \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}$  【2点】

である ( $k, l$  は0でない実数)。

行列  $P = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ -4 & -1 \end{pmatrix}$  とおけば、 $P$  は正則行列なので、

$P^{-1}AP$  は対角行列となる。よって、対角化可能であるである【4点】。

- 8 直交行列  $P$  を用いて  $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix}$  と変換することにより、2次形式  $x^2 + 4xy - 2y^2$  は  $\alpha X^2 + \beta Y^2$  となる。 $\alpha, \beta$  と  $P$  を求めなさい。

$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & -2 \end{pmatrix}$  とおくと、この2次形式は

$$x^2 + 4xy - 2y^2 = \begin{pmatrix} x & y \end{pmatrix} A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \quad \text{【3点】}$$

と書ける。この行列  $A$  を直交行列で対角化する。

$$f_A(t) = \begin{vmatrix} 1-t & 2 \\ 2 & -2-t \end{vmatrix} = t^2 + t - 6 = (t-2)(t+3)$$

より、固有値は  $-3, 2$  である。【2点】。また、固有ベクトルは

それぞれ  $k \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \end{pmatrix}, l \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$  である ( $k, l$  は0でない実数)

【各2点】。したがって、各固有ベクトルを正規化したベクトルを並べて行列  $P = \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}$  をつくと、 $P$  は直交

行列で、 ${}^tPAP = \begin{pmatrix} -3 & 0 \\ 0 & 2 \end{pmatrix}$  である【3点】。

ここで、 $\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = P \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} = PX$  とおくと、

$$\begin{aligned} x^2 + 4xy - 2y^2 &= {}^t\mathbf{x}A\mathbf{x} = {}^t(P\mathbf{X})AP\mathbf{X} = {}^t\mathbf{X}({}^tPAP)\mathbf{X} \\ &= \begin{pmatrix} X & Y \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -3 & 0 \\ 0 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} \\ &= \underline{-3X^2 + 2Y^2} \end{aligned}$$

となる【3点】。